



ぞまたん
座間小キャラクター

校長だより

座間市立座間小学校（電話 251-0009）
校長 大谷 一

5月15日には小中合同一斉引き渡し訓練がありました。全国で大きな地震が頻発しているので、本市にいつ大地震が発災するのか分かりません。訓練の想定内で収まる災害なのか想定外の規模になってしまうのか不安は尽きません。しかし、今できる最善を尽くすことが大切だと思っています。訓練を通して対策の弱点を発見し改善していくことを重ねていきたいと思っています。



スマイルフェスタ



6年生の社会科の授業

先生が足りないと報道されています。児童数に応じて学級数が決まり、学級数で先生の定員数が法律によって決まります。その規定の人数以外にもいろいろな配慮から追加で非常勤の先生などが市や県の予算で配置されています。このような追加の配置を含めると、本校では現時点では教員数が十分に足りてはいないという状況です。そして、現在お勤めの先生がお休みになってしまうと代わりとなる代替の先生はいません。校長が一番怖れているのは担任が欠員になってしまうことです。これは本校だけではなく、市、県、国内がすべて同じような状況です。このように先生が足りない状況がしばらく続いています。その原因としては、先生という仕事に魅力を感じていても長時間勤務は避けたいと感じる学生が増えているということ。先生が自分の子どもを出産し育児と教職の両立は難しいと先生の仕事をあきらめてしまうこと。病気になってしまって先生を辞めてしまうこと。若年労働者はどの業界でも不足しているなかでワークライフバランスを考えて多くの時間を働かない方がよいと考える人が増えていることなど様々なものが挙げられます。その背景には先生の長時間労働が影響していると言われています。先生の勤務時間は8:15～16:45で途中休憩時間が45分です。残念ながら朝も夕方も休憩もその時間では勤務できていないのが実態です。そのために児童の登校時刻を8:15に遅らせるような学校も出てきています。また、超過勤務時間に相当する残業代は支給されません。児童の登校前や下校後に、児童が取り組んだ課題やプリントの採点や確認をしたり、翌日の授業や学校行事などの進め方などをより良くしたいと願って準備に時間をかけたりしていますが、学校で起きた事故や事件を対処するためにも多くの時間がかかっています。そのことを責任ややりがいと感じて勤めています。しかし、他業種との労働時間の差が広がってきていて先生の働き方改革は待ったなしという状況です。このことを校長としても最重要課題の一つと位置付けて、先生が大きな負担を感じることなくやりがいを感じて勤務できる職場環境となるように改善に取り組めます。そのようにしなければ教職離れが加速して、教員の確保がますます困難になってしまいます。職場環境を改善することは児童によりよい教育活動を受けていただくことにもつながっていると考えています。保護者のみなさんで教員免許をお持ちの方やお知り合いの方で先生をしてもよいとお考えの方がいましたらお知らせいただくと大変にありがたいです。